

13.抗 MRSA 薬投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合

【指標の意義・定義】

意義：抗 MRSA 薬（例：バンコマイシン、テイコプラニンなど）は、適切な血中濃度を維持することで治療効果を最大化し、薬剤関連有害事象を最小限に抑える必要があります。本指標は、薬物治療モニタリング (TDM: Therapeutic Drug Monitoring) が適切に実施されているかを評価するものです。

定義：抗 MRSA 薬を投与された症例のうち、少なくとも 1 回の薬物血中濃度測定が実施された割合（投与された全症例に対する測定実施症例の割合）。

【当院の実績】

2024年											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
93.0%	88.0%	100.0%	85.7%	97.3%	93.8%	97.1%	95.6%	92.0%	88.6%	97.2%	84.8%

【指標の説明】

- ・対象薬剤: 主に抗 MRSA 薬（例：バンコマイシン、テイコプラニン）。
- ・測定の適切性を評価することで、患者の安全性向上や耐性菌発生リスクの低減が期待されます。
- ・測定タイミング（例：トラフ濃度）や目標血中濃度がガイドラインに準じているかも指標管理の一部として検討する。
- ・高い測定実施率は、AST による薬剤適正使用支援が臨床現場で根付いていることを示す可能性があります。